

Y6-12

ミキサー食と半固形化栄養剤の併用で満足度の高い在宅介護が可能となった一例

長岡赤十字病院

○坂井 佳織、金田 聡

【はじめに】ミキサー食や半固形化栄養剤には、逆流防止、注入時間短縮などの利点があるが、一方でミキサー食には作る負担、半固形化栄養剤にはコストが問題となる。今回、食道癌による食道狭窄のため経口摂取が困難となった高齢患者に対して胃瘻からミキサー食と半固形化栄養剤の併用により栄養を施行し、本人、家族に満足度の高い在宅介護が可能になった症例を経験した。

【症例】89歳女性。食道癌にて狭窄症状が出現し、PEGを造設した。当初、エンシュアリキッドにて栄養を開始するが、本人の「栄養投与中にベッド上で拘束されるのが苦痛」との訴えがあり、「退院後も通常通りの生活を送っていきたい」との希望もあって、栄養投与時間を短縮する目的にミキサー食を開始した。嘔気や下痢などの症状もなく投与時間も短縮されて、本人の満足度も高く、手技習得にも意欲的であった。退院後に在宅で栄養管理を継続していくに際し、家族より1日3回のミキサー食作りは負担が大きいとの意見があった。半固形化栄養剤の併用を提案したが、市販の半固形化栄養剤はコストが高く継続は困難なため、エンシュアHを粉末状の固形化補助食品にて半固形化し、注入する方法を選択した。結果、必要エネルギー量、タンパク質、水分を、エンシュアH2缶とミキサー食で継続継続できるようになり、ミキサー食の献立や作り方などを、本人と家族に指導し退院となった。

【まとめ】ミキサー食と半固形化栄養剤の併用により、時間短縮、家族の介護と経済的負担の軽減が可能となった。在宅介護を成功させるには、1つの方法にこだわらず、利点を取り入れ、不都合は最小限におさえるように柔軟に対応することが重要と考えられた。

Y6-13

半固形栄養剤カームソリッド®の有用性

前橋赤十字病院 NST

○星野 美佳、小野 久美子、藤田 ゆかり、
後藤 幸子、山本 淳子、伊東 七奈子、
立川 厚子、佐川 俊彦、小川 哲史、
池谷 俊郎

【目的】当院では、寒天を用いた半固形化経腸栄養剤の投与を積極的に行ってきた。半固形化の適応を、下痢や嘔吐、誤嚥を繰り返す症例、ダンピング症候群や胃食道逆流の症例、褥瘡予防やリハビリ中の症例、チューブの自己抜去の危険がある症例、胃瘻から栄養剤の漏れがある症例とし、臨床期に良好な結果を得ている。しかし半固形化経腸栄養剤を使用する際の問題点として、作製する栄養士の手間や、チューブの閉塞や汚染の危険性、また水分管理や排便コントロールが困難であることがあげられる。今回、10,000mPa・sの粘度で適切な水分量に調整された半固形栄養剤であるカームソリッド®を使用し、その有用性を検討した。

【方法】半消化態栄養剤からカームソリッド®に変更したPEG症例10例を対象とした。カームソリッド®は、加圧バッグを用いて約20分間で投与した。変更前後で、胃食道逆流や嘔吐の有無、便の性状、栄養管理を行う医療従事者の利便性を比較検討した。

【結果】全例に胃食道逆流や嘔吐は認めなかった。変更前に下痢を認めた4例はカームソリッド®に変更後に全例改善した。変更前に便秘気味であった5例のうち1例は軟便となった。医療従事者の利便性では、栄養士の半固形化する手間や、実際に投与する看護師はシリンジに移す手間が省け、栄養剤以外の水分補給の回数が減少した。PEGチューブ内の栄養剤の付着がほとんどないため、チューブフラッシュを行わずに清潔を保てた。

【まとめ】適切な水分量に調整された半固形栄養剤であるカームソリッド®は、胃食道逆流や嘔吐、下痢などの消化器合併症の予防と対処に有用である。また栄養管理を行う医療従事者の負担を軽減し、さらに衛生的であることから、PEG症例に有用な栄養剤と考える。